

中学校 第3学年国語科学習指導案

実施 平成26年4月下旬～7月初め
生徒 第3学年4学級 全119名
授業者 廣瀬 充

1. 単元名

俳句調べ（教材：学校図書『中学校国語 3』「俳句」「俳句十五句」）

2. 単元の目標

- 俳句について関心をもち、様々な資料を用いて、鑑賞を深めようとする。（関心・意欲・態度）
- 資料を適切に活用して、内容の理解に役立て、鑑賞を深めることができる。（読むこと）
- 俳句の基礎知識や俳人、俳句史について理解を深め、俳句の鑑賞の方法を身につけることができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言葉についての知識・理解・技能
・俳句について関心をもち、様々な資料から分析をして、鑑賞を深めようとしている。	・資料を適切に活用して、内容の理解に役立て、鑑賞を深めている。	・俳句の基礎知識を理解し、俳人や俳句史についても知識を広げている。 ・俳句の鑑賞の方法が身についている。

4. 指導観

（1）単元観

本単元は、俳句についての調べ学習を行い、鑑賞を深めさせることを目的とした単元である。

俳句の授業というと、音読をして、一句ずつ基本的な知識を確認しながら解説を行い、生徒に感想を持たせる、というのが一般的な流れであろうか。しかし、解説に終始すると、生徒はただそれを聞くだけという受け身になってしまい、そうかと言って、解説なしで生徒が独力で読み解くには無理がある。そこで、何か良い方法はないかと考え、調べ学習を取り入れることにした。

俳句をペアで一句選び、様々な資料を活用しながら、情報をまとめていく。そして、それを踏まえて、自分なりの鑑賞を試みる、という流れで進める。最後に発表の機会を設けることで、得た情報や自分の考えを整理したり、取捨選択したりする必要性が生まれるよう配慮している。調べ学習を行う中で、俳句の奥深さ、そして、鑑賞の多様さを味わわせたい。

本単元終了後の夏休みには俳句創作の課題、2学期にはそれを用いた句会を予定している。本単元で学んだことを、自分の表現や他の生徒の俳句の鑑賞に活かせる場となる。また、2学期に扱う「おくのほそ道」を学習する際も、俳句への理解が重要になってくる。これらの見通しを持たせることが、生徒

の学習意欲の向上につながることも期待したい。

(2) 生徒観

対象は第3学年4学級の生徒である。本校は、30人学級ということもあって、ペアワークやグループワークなどの活動を取り入れやすい学習環境である。今回の調べ学習に関しても、調査から発表まで行なうにあたって、15ペアという人数は適当だと思われる（それ以上になってくると、調査や発表の時間を短縮する必要がある）。週1時間の授業のため、比較的長い期間をかけて、取り組むことになる。授業時間以外にも積極的に調べ学習を進めるよう促していきたい。

短詩型文学については2年時に短歌を学習しており、創作なども継続して行ってきたため、5・7・5というリズム自体には抵抗感なく取り組めるはずである。ただし、季語や切れ字など、俳句特有の表現技法に関する学習は初めてであり、それらの表現技法が内容に及ぼす影響を感じ取れるように、留意したい。

(3) 教材観

教科書に採られている「俳句十五句」は、著名なものが多く、また、情景を思い浮かべやすい句が載っているため、中学生にも比較的味よいと思われる。しかし、一方で、マイナーな句がないわけではない。特に現代俳人の句は、資料もあまりなく、調べ学習に困難が生じる可能性も考えられる。その場合は、適当な資料を授業者から紹介するとともに、資料の量のみで評価するわけではなく、特に鑑賞が重要であることを併せて伝える必要があろう。

俳句の基礎知識に関しては、事前に国語便覧やプリントを用いて簡単に確認をするが、調べ学習の中でも再確認できるよう、ワークシートを工夫した。教科書中の十五句も季語や句切れ、表現技法などが様々バランスよく採られており、そういった知識が実際にどのように用いられているかが実感できるように配慮されていることが分かる。知識の暗記に陥らないよう、常に作品に立ち返らせることを意識させたい。

5. 単元指導計画（全9時間）

次	時	・学習活動	○指導上の留意点 ※評価
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しをもつ。 ・俳句や短詩型文学についての既有知識を確認する。 ・二つの俳句を比較し、優れていると思う方を選ぶ。 ・教科書「俳句」を読み、改めて二つの俳句を比較する。 ・俳句の特徴、優れた俳句とは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年時に短歌の学習をしているので、その内容を思い出させる。 ○俳人が作った俳句と授業者が作った俳句を比較し、どう感じたか、どこが良かったか、なぜそちらを選んだかを考えさせる ※俳句について、自分なりに感想をもとうとしている。[ワークシート]

	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の基礎知識を学習する。 ・教科書「俳句十五句」のうち、夏の句を探す。 ・次時以降の見通しをもつ。 ・調べ学習のペアと担当する俳句を決める。 	<p>○国語便覧の他にワークシートを用いる。</p> <p>※季語について理解している。[ワークシート]</p> <p>○担当する俳句が被らないようにし、クラスで十五句が分担できるようにする。</p>
第2次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習 	<p>○資料が少ない俳句に関しては、授業者から適当な資料を紹介する。</p> <p>※俳句について関心をもち、様々な資料から分析をして、鑑賞を深めようとしている。資料を適切に活用して、内容の理解に役立て、鑑賞を深めている。俳句の基礎知識や俳人、俳句史について理解を深め、俳句の鑑賞の方法が身についている。[ワークシート]</p>
	第4時		
	第5時		
第3次	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・発表者による音読、発表、質疑応答、音読、授業者による補足という流れで行う。 	<p>※俳句について関心をもち、様々な資料から分析をして、鑑賞を深めようとしている。資料を適切に活用して、内容の理解に役立て、鑑賞を深めている。俳句の基礎知識や俳人、俳句史について理解を深め、俳句の鑑賞の方法が身についている。[発表]</p>
	第7時		
	第8時		
第4次	第9時	<ul style="list-style-type: none"> ・句会 	<p>○夏休みに俳句作りの課題を出し、2学期の初めに提出させる。</p>

俳句の基礎知識

三年 組 番 ()

○形式

- ・基本形式 ……五七五の三句十七音 ↓ 最短定型詩
- ・字余り ……五七五より字数が多いもの
- ・字足らず ……五七五より字数が少ないもの
- ・散らばれるものをまたぎて日短か 富安風生
- ・句またがり……意味の切れ目と五七五が一致しないもの
- ⇕ 例 この葉降りやまずいそぐないそぐなよ 加藤楸邨
- ⇕ 自由律俳句……自由な音数で詠まれた俳句
- 例 咳をしても一人 尾崎放哉
- あるけばかっこういそげばかっこう 種田山頭火

○季語

- ・季語 (季題) ……季節を表す言葉 ↓ 有季定型
- 一句一季語 (×季重なり)
- ・歳時記 ……季語を集めて、季節ごとに分類したもの
- ・季語の働き ……①季節感 ②安定感 ③重層性
- ⇕
- ・無季俳句 ……季語をふくまない俳句

○切れ字

- ・切れ字 ……内容や意味を切る言葉
- ・切れ字の効果……①詠嘆 ②省略 ③格調
- 例 夕東風や海の船みる隅田川 水原秋桜子
- 夕東風に海の船みる隅田川
- ・主な切れ字…「や・かな・けり」

○句切れ

- ・句切れ ……意味の流れが切れるところ
- ・句切れの位置……直前に ①切れ字 ②体言止め ③終止形
- ・句切れの種類
- ① 初句切れ 例 天の川鷹を飼われて眠り居り 中村草田男
- ② 二句切れ 例 校塔に鳩大木日や卒業す 加藤楸邨
- ③ 句切れなし 例 まさをなる空よりしだれざくらかな 富安風生
- ④ 三段切れ 例 初蝶来何色と問ふ黄と答ふ 高洪虚子

自由律俳句 紹介

○尾崎放哉

咳をしても一人
入れものが無い両手で受ける
墓のうらに廻る
蜜柑たべてよい火にあたつて居る
病人の蜜柑をみんなたべてしまった
足のうら洗へば白くなる
口あけぬ蜆死んでゐる

○又吉直樹

転んだ彼女を少し嫌いになる
フタをしめない主義なのか
大人なのに行きつけの店がない
モータープールでは泳げないと知った夏の日
ひげ剃りにも負けた
まだ帰りたくないからナゾナゾに答えない
遠目に見ていた観覧車に明日乗る
ポケットに五円玉いつのものか
便座はおそらく冷たいだろう
まだ何かに選ばれることを期待している

秀逸な鑑賞とは

○水原秋桜子『近代の秀句』より

愁あり歩き慰む蝶の昼 松本たかし

解釈 なにか心にかかる事があって四五日引きこもっていた。窓外には麗らかな日和で、道行く人々の話し声さえ楽しげにきこえる。すこし歩いてみたら気も晴れるだろうと思つて作者も外に出てみた。丘には真盛りの椿が風にかがやき、道辺には蒲公英（たんぽぽ）が咲き、堇（すみれ）も咲きまじっている。蝶が二つ三つ、作者の後ろになり先になりして飛んでゆく。その影がはっきり地にうつるのを見ると、時刻は正午をすぎた頃なのだが、作者はまだ食事をすることも忘れていたのだ。しかし、歩いているうちに心も次第に軽くなっていった。家々の垣には、はや木の芽が伸び、連翹（れんぎょう）の咲く庭からは、鞆韃（しゅうせん）の軋りがきこえたりする。こうして半時ほど経て家に帰った気持は決して暗くなかった。門辺にいた犬がなつかしげに尾を振りつつ、身体をよせて来た。

批評 「蝶の昼」は「蝶のとぶ昼間」の意味で、俳句独特の省略である。この句、表現が実に緻密で間然とするとところがない。「愁あり」とはじめに置いたところなど、実に大胆であるが「蝶の昼」がしかと全体を抑えているので破綻もなく、新鮮な感じをおこさせる。「歩き慰む」もまた簡にして要を得ている。

俳句調べ

三年 組 番 ()

()

<p style="text-align: center;">作者について</p>	<p style="text-align: center;">使われている表現技法</p>	<p style="text-align: center;">難意語・難読語</p>		
		<p style="text-align: center;">俳句</p>	<p style="text-align: center;">作者</p>	<p style="text-align: center;">題材となっている景物</p>
		<p style="text-align: center;">季語 (季節)</p>	<p style="text-align: center;">句切れ (切れ字)</p>	

	<p>この俳句が作られた状況</p>
<p>この俳句の評価</p>	
<p>鑑賞</p>	<p>この作者の他の句</p>
<p>参考文献</p>	

俳句調べ 要項&ループリック

3 年 組 番（ ）

要項

○難意語・難読語

意味や読み方が難しい語句について調べてください。季語の詳しい説明もここに書きます。要出典。

○題材となっている景物

俳句は、直接感情を表現するのではなく、主に情景や物（景物）を詠むことを通して、表現をします。どんな情景や物が詠まれているかを書いてください。

○句切れ

句切れの種類と何によって切れているか（切れ字・体言止め・終止形など）を書いてください（プリント「俳句の基礎知識」参照）。

○使われている表現技法

字余り・字足らず・句またがりや、国語便覧 p.173 に載っている表現技法のうち、どのようなものが使われているか、また、それによってどのような効果もたらされているかを考えます。国語便覧 p.150～151 の「詩の表現技法」も参考になります。

○この俳句が作られた状況

この句が作られた時の作者の状況やこの俳句を詠んだ理由、その他の時代背景などについて調べてください。

○この俳句の評価

この句がこれまでどのような評価を受けてきたかを調べてください。要出典。

○鑑賞

この句の表現意図、どんな心が表現されているか、どんな世界が表現されているか、どんな表現が優れているか、などを考えて書きます。また、感想なども書いてください（感想は個人個人で考えます）。

○この作者の他の句

この作者の他の句を二、三句紹介してください。一言説明も。

○参考文献

書籍の場合は「書名・著者名・出版年・出版社」を明記。Web ページの場合、「ページ名・アドレス・作成者名・閲覧年月日」を明記。

ルーブリック

	0	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
規準A「内容」 (主にワークシート)	次のいずれの規準にも満たない。	情報が誤っている。情報量が少ない。発表者の考えが全く示されていない。	情報の所々に誤りが見られる。情報量が不十分である。発表者の考えが限定的に示されている。	情報が正確である。情報量は十分だが、やや不明瞭である。発表者の考えが十分に示されている。	情報が正確である。情報量が多い。発表者の考えが適切に示されている。	情報が正確であり、情報量も豊富で明瞭である。発表者の優れた考えが分かりやすく示されている。
規準B「構成」 (主に発表)	次のいずれの規準にも満たない。	聞き手への配慮が全く感じられず、理解できない発表となっている。質疑に対して、答えようとする意志がない。	限定的にしか理解できない発表となっている。質疑に対して、答えを曖昧にしている。	ある程度理解できる発表となっている。質疑に対して、答えも答えている。	理解しやすい発表となっている。質疑に対しても適切に答えようとしている。	適度な補足があり、聞き手にとって分かりやすく興味深い発表となっている。質疑に対しても適切に答えられる。
規準C「スタイルと言語の用法」	次のいずれの規準にも満たない。	誤字脱字が多い。用語を全く理解していない。	誤字脱字が所々に見られる。理解していない用語がある。	誤字脱字が見られない。用語への理解が浅い。	誤字脱字が見られない。用語を理解している。	誤字脱字が全く見られない。用語を理解し、積極的に使用している。

俳句を作る

三年 組 番 ()

① 俳句の基礎知識を確認する。

- ・ 五七五の三句十七音 (字余り・字足らず・句またがり)
- ・ 季語 (歳時記)
- ・ 切れ字 (や・かな・けり)
- ・ 句切れ (初句切れ・二句切れ・三段切れ・句切れなし / 切れ字・体言止め・終止形)

③ 便覧 p.170～p.173

② 配合の句 (二物衝撃) か一物の句か

一物の句が一つの対象を深く鋭く観察して作者独自の発見をしなければならぬのに対して、配合の句は二物の組み合わせの妙味の勝負であるため、わりあい初心の作者でも成功しやすい。二物の組み合わせについては「遠↑↓近」「大↑↓小」「明↑↓暗」や色彩の対比があると良い。

③ 「型」を利用する。

〔型・その1〕

季語 (名詞) や

□

名詞

- ・ 上五に季語を置き、「や」で切る。
- ・ 下五を体言止めにする。
- ・ 中七は下五の名詞のことを言う。
- ・ 中七・下五はひとつながりのフレーズである。
- ・ 中七・下五は上五の季語とまったくかわりのない内容である。

④ 例

名月や男がつくる手打ちそば

森澄雄

〔型・その2〕

□

や

季語 (名詞)

④ 例

寄せ書の灯を吹く風や雨蛙

渡辺水巴

〔型・その3〕

□

□

季語 (名詞) かな

④ 例

オムレツが上手に焼けて落葉かな

草間時彦

〔型・その4〕

季語 (名詞)

□

動詞 + けり

④ 例

みぞれ雪涙にかぎりありにけり

橋本多佳子

参考 藤原湘子 (二〇一〇) 『新版 20 週俳句入門』 角川学芸出版



参考 小林木造（二〇〇三）『俳句力 ゆっくり生きる』日本放送出版協会